

3. 今後の基本的な考え方

(1) 地域の実情に応じた道づくり

地形や交通状況、道路状況、地域のニーズ等、地域の実情に応じた道づくりを推進するとともに、事業の評価に際しては、地域にもたらされる様々な効果についても適切に評価していく。

(2) 投資の重点化とコスト縮減

選択と集中の観点から成果の高い事業を峻別し、投資を重点化することにより、事業のスピードアップ、効率化を図る。

また、これまでのコスト縮減に対する取り組みを踏まえつつ、地域の特性やニーズから求められるサービスレベル、地形条件や交通状況等を踏まえ、総合的なコスト縮減を推進する。

(3) 既存ストックの有効活用

これまで蓄積してきた道路ストックの機能を維持するとともに、その利用価値を高め、道路利用者にとってより使いやすい道路とするため、既存ストックの点検や予防保全により長寿命化を図るとともに、その機能を最大限に有効活用する。

本四3架橋を含めた既存高速道路ネットワークの有効活用により四国内外の交流連携を促進する。